社会福祉法人青垣福祉会　　畑田久祐　様

令和７年度　認定こども園あおがき　幼稚園評価

1　目標

本年度の重点目標	・基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度や能力を育てる。 ・主体的に物事に取り組もうとする意欲や態度を育む。 ・互いの思いや考えを共有し、最後までやり遂げる力を培う。 ・身近な人や自然とふれあう直接体験を通して、情操豊かな心を育む。

2　自己評価（達成状況　A：優れている　B：おおむね良好　C：やや改善　D：要改善）

領域	観点	評価目標	達成状況	園の取組状況と改善の方策
園運営	開かれた園づくり	多様な人々とのふれ合いやかかわり	A	地域との交流を重視し、応援隊の読み聞かせや見守り活動、小・中・高校との連携、高齢者施設との交流に加え、青垣の豊かな自然を生かした体験活動にも取り組んだ。今年は高校生のボランティア体験を初めて受け入れ、大学生や看護学生との交流も進み、子どもたちが多様な世代と関わる機会が広がっている。今後は来園型と訪問型の交流のバランスを見直し、応援隊の特技を生かした活動の充実や、学校・学生との計画的な連携を強めることが課題である。また、高齢者との交流内容を工夫し、多世代が参加できる場を広げることで、地域全体で子どもを育てる環境づくりにつなげていく。
	子育て支援の推進	「親と子の育ちの場」につながる情報発信・相談活動	B	ドキュメンテーションを通して乳幼児期の育ちや子ども主体の保育の意義を発信し、保護者が園の保育観を理解しやすいよう努めている。また、日常的に相談しやすい雰囲気づくりを進めているが、バス利用の保護者は担任と話す機会が少ないため、「希望者のみの懇談会ではなく、全員対象で実施してほしい」という意見が寄せられている。貸出絵本については、年齢が上がるほど家庭での活用が十分でない状況も見られる。さらに、学校保健安全委員会で示された虫歯保有率が全国平均を上回っていることから、保護者への啓発方法の工夫も課題となっている。今後はドキュメンテーションの分かりやすさを高め、懇談の在り方を検討し、絵本の活用や虫歯予防に関する情報提供を強化することで、家庭と連携した子どもの育ちを支える環境づくりを進めていく。
教育課程	遊びを通した幼児期にふさわしい生活の総合的な展開	主体的に遊びを工夫する	B	子ども達の遊ぶ様子から必要な道具を準備したり遊びのヒントを出したりして、イメージしたことややってみたいことができる環境を整えた。わんぱーくでは身近な草花や生き物に触れながら自分たちで遊びを考え、全身を使って大胆に遊ぶ楽しさを味わっている。年間を通してなかよしタイム（３～５歳児）に取り組み、異年齢児とふれあいながら好きな遊びを選んで取り組める環境作りを行った。縦割り保育では５歳児を中心に活動を考え、異年齢児とのかかわりが広がるきかっけとなった。自然遊びや好きな遊びからの学びや気付き、発想を基に季節に応じた遊びを見通しながら様々な経験や体験につながるよう今後も取り組んでいく。
	基本的生活習慣の育成	家庭と共に進める生活習慣の育成 （挨拶・睡眠）	A	送迎時には、保育者が気持ちの良い挨拶を心がけ、子どもたちにもその雰囲気が伝わるようにしている。毎日の積み重ねの中で、挨拶が自然に交わせるようになってきている。 また、家庭での就寝時間が遅くなりがちな園児もおり、生活リズムを整えることの大切さを保護者と共有しながら、無理のない改善策を一緒に考えてきた。すぐに変化が見られる場合もあれば、なかなか安定しないこともあるが、保護者と相談を重ねる中で、少しずつ取り組みが前に進んでいる。園と家庭が同じ方向を向きながら、子どもがより安心して過ごせる生活リズムを整えていけるよう、今後も継続していく。
	園小連携	小学校との連携・交流	B	年度始めに園小連携会議を持ち、年間の交流（１年生、５年生との交流）を計画し取り組んでいる。また、小学校の運動会、音楽会、マラソン大会などの見学を行う機会を設けることで、小学校の雰囲気が感じられ、就学への期待につながっている。７月には小学校職員の保育参観及び園小職員合同研修を行い、園の取り組み「遊びは学び」の理解や子どもの姿を共有することができた。また、「架け橋期カリキュラム」を活用し、学びのつながりについて具体的に話をした。今後も子どもたちがスムーズに小学校生活へ移行できるよう密に連携をし、相互理解を深めていく。
課題教育	特別支援教育	インクルーシブ教育の実践	B	発達、国籍にかかわらず、誰もが見て分かるイラストや目印、マークを使って手順や場所等を知らせている。専門機関と連携を密にし、個々の課題に応じた援助の仕方や遊びの工夫を学び、日々の取り組みに活かしている。加配職員だけでなく担任も共通理解し、一人ひとりの個性が活かせるよう活動を組み立てている。今後も子ども同士が個性を認め合い、互いに支え合える関係を築くことで人との繋がりが深まり、安心して生活できるよう環境を整えていく。
	道徳性の芽生えの育成及び人権教育	「ありがとう」の気持ちを伝え合う	B	保育者は日常のやり取りの中で率先して「ありがとう」の言葉を大切にし、子どもたちと一緒に、言葉や態度で気持ちを伝え合う心地よさを感じられるよう関わっている。感謝の気持ちを丁寧に伝える姿を保育者自身が示しながら、子どもたちも自然とその姿を真似ていけるようにしてきた。 また、友だち同士や異年齢児との関わり、応援隊や地域の方々との交流の中で、感謝の会を開き、一緒に遊んだり歌を歌ったりしながら「ありがとう」の気持ちを言葉で伝える機会を大切にしている。今後も感謝を伝えたり、受け取ったりする経験を重ねることで、喜びや思いやりの気持ちが子どもたちの中に自然と育っていくよう取り組んでいく。
	安全教育	遊びや生活の中で体験を通した安全教育の実施	B	園では、避難訓練や交通安全教室、散歩などの活動を重ねながら、子どもたちと一緒に、自分の身を守る方法や交通ルール、日常生活での安全な行動について考え、身につけていけるよう取り組んでいる。また、防災かるたや安全に関する教材を使い、遊びの中で防災や身を守る意識を自然に高められるよう工夫している。 さらに、ヒヤリハット事案が起こった際には、子どもたちと一緒にその場面を振り返り、どうすればもっと安全に遊べるか、どんな関わり方が心地よいかをみんなで考える時間を大切にしてきた。今後もこうした日々の積み重ねにより、子どもたち自身が危険に気づき、安全に行動しようとする姿が育まれるように安全教育の充実を目指していく。

	食育	食べ物への関心を広げ「感謝の心」を育む	B	今年度は、地域の方から旬の野菜や果物をたくさん届けていただいた。子どもたちは枝から枝豆やさくらんぼを収穫する貴重な体験ができた。また、野外クッキングでは地域の方と一緒に料理をしたり魚を焼いたりし、調理に関わる中で食への興味が深まるとともに、喜びや笑顔で「ありがとう」を伝える姿も多く見られ、支えてくださる人への感謝の気持ちが育っていると感じた。1月には、阪神・淡路大震災に関わる話を聞き、1～5歳児が自分たちでおむすびを作り、5歳児は、紙皿にナイロン袋を敷いて食べる体験をした。災害時の食の工夫を知るとともに、日頃の食のありがたさを感じる機会となった。次年度も、地域の方々とのつながりを大切にしながら、食を通して感謝の心を育む活動に取り組むように努める。

3　幼稚園関係者評価

・異年齢児や多世代との交流、園の様子が園だよりやイロドリンクからも分かり、今後の集団生活においてとても良い経験となっていると感じる。高齢者も子どもたちと交流することを楽しみ、元気をもらうことができるため、今後も交流を続けて欲しい。
・保護者アンケートの評価が高いことから、保護者も園はよくやってくれていると感じていると思うので、この状態を続けて欲しい。
・全体を通して、子どもたちに様々な学習や体験・チャレンジする場を提供していただき、その中で一人一人に合わせた教育・指導を行っていただいていると思っている。
・子どもたちへの健康教育（食事・睡眠・虫歯・メディア依存等）にも力を入れて取り組んで欲しい。
・５歳児と小学校との交流では、交流を重ねることで環境の違いを知り、新しい環境に適応しやすくなると思う。青垣ならではの教育（１園、１小中高）の連携を密にし、地域と共に子どもたちを育てられるよう取り組んで欲しい。
・青垣の豊かな自然が身近にあるが、川や山などで遊ぶことが少ないと感じる。自然環境の変化もあるが、自然遊びの中で試行錯誤する経験が大切だと思うので、今後も取り入れて欲しい。
・地域の方からたくさんの食材をいただける環境と、子どもたちに還元されていることがとても良い。収穫やクッキング体験から苦手な食べ物へのチャレンジ心の芽生えや、地域の方や食への感謝の気持ちを育めるよう取り組みを続けて欲しい。

4　幼稚園評価を受けての次年度の改善の方向性

・継続的な交流の仕組みを整え、多世代が自然に参加できる場を広げることで、地域全体で子どもを育てる環境づくりにつなげていく。
・自然遊びや子どもが好きな遊びから生まれる気付き・発想を大切にし、季節に応じた遊びを見通しながら、さまざまな経験につながる活動を継続していく。
・『架け橋期カリキュラム』を活用し、幼児期と小学校の学びのつながりについて具体的に共有し、子どもたちがスムーズに小学校生活へ移行できるよう、相互理解を深める。
・子ども同士が互いの個性を認め合い、支え合える関係を築けるような環境を整え、安心して生活できる人間関係の土台を育て、園生活全体の安心感につなげる。
・地域の方々との関わりを大切にしながら、食を通して感謝の心を育む活動に取り組む。

令和　8年　3月　12日

社会福祉法人青垣福祉会　認定こども園あおがき

園長　　竹安　里美